

工業技術支援アドバイザーの紹介

すみごこちデザイン

隅垣内 彰 (すみがいち あきら)



【専門部門】

デザイン

【専門分野】

商品デザイン（調査分析、問題点の抽出、コンセプト立案、基本デザイン、実施デザイン、デザイン監理）、商品デザインに伴うロゴマーク、カラーリングなど CI・VI デザイン

【略歴資格等】

1984～1991 年自動車メーカー勤務 乗用車のエクステリア・インテリアデザイン、1992～1997 年デザイン会社勤務 ハンドル型電動車椅子デザイン開発他、各種プロダクトデザイン、高齢者介護施設住環境デザイン、1997～2002 年情報システム会社勤務 ソフトウェア商品企画及びインターフェースデザイン、バリアフリー図書検索システム研究開発 (TAO)、公衆情報提供端末デザイン開発、高齢者介護施設住環境デザイン、2002～2012 年社会福祉法人における各種高齢者介護施設開設準備業務及び施設住環境デザイン、2007 年～川崎医療福祉大学 医療福祉デザイン学科非常勤講師、2008～2011 年広島市立大学芸術学部非常勤講師、2012 年～個人で活動 (すみごこちデザイン) 医療、介護施設に関わる各種デザイン、セラピー用シューズ開発参加、老犬用歩行器開発参加、岡山県産業振興財団軽量車椅子開発 PJ 参加、色彩コーディネーター、UC (ユニバーサルカラー) アドバイザー、福祉住環境コーチネーター、社会福祉主事任用資格

【アドバイザーから一言】

商品開発におけるデザインの役割が変わってきました。かつてデザインは安全性や使いやすさといった人間工学の領域を土台にして美しさやカッコ良さといった造形による魅力性を融合させることを役割としていました。技術の発展がめざましい時代、その技術を追いかけるように様々なデザインを生み出し私たちの暮らしを彩っていきました。時代を経て、今はどの企業も技術レベルが上がり、低価格で良いモノが作られるようになりました。同じ目的の商品が各社から販売され機能性も同水準となり、良いモノをつくっただけでは選ばれづらくなってきました。そしてユーザーは商品を購入する時、モノそのものではなく、それを使うことにより得られる楽しさや心地よさといった「良い体験」を重視するようになりました。ユーザーにどのような問題があって、どう解決すれば「良い体験」を提供することができるか、ユーザーの気持ちになって考えることがデザインの役割になってきました。デザイナーには問題を解決する能力が求められますが、その前に問題をいかに発見するか、という能力が必要だと考えています。

アドバイスできる内容・・略歴に記載したように、特に福祉分野の業務経験から高齢者・障害者を対象としたデザインに関するアドバイスが可能です。

【研究内容の紹介】・【賞歴】・【その他】

研究内容 — 各種福祉用具研究

その他 — 県立広島大学看護学科地域保健福祉論「ユニバーサルデザインを目指したモノと住環境づくり」講義 (2011～2013 年) 日本福祉のまちづくり学会中国四国支部講演会「利用者から見たパーキングパーミット」講演 (2012 年) 岡山県産業振興機構ライフイノベーション推進事業セミナー「ノーマライゼーションの現状と今後の展開について」講演 (2013 年) ミラサボ専門家登録 (2017 年～) 穴吹デザイン専門学校、特別講義 (2017 年～)

【HP・Facebook】

<http://sumigokochi.net/>